



やあ! yaa!

URL:<http://tia21.or.jp/>

E-mail:tia@tia21.or.jp



▲多文化共生カレッジ ペルー編(左上)、ブラジル編(左下)、日本編(右上)、中国編(右下)

「多文化共生カレッジ」開催

TIAの多文化共生推進室では、日本人と外国人が互いの文化を尊重し合いながら、安心して暮らすために、多文化共生を推進することを目的に様々な講座を実施しています。「多文化共生カレッジ」のブラジル編・ペルー編・中国編では食事や音楽などの文化体験、外国人を対象とする日本編では、茶道や華道の体験など、それぞれの国の文化の違いに参加者はとても驚いていました。

その他、日本語の漢字を学びたい外国人の方のために、パソコンを使って漢字を楽しみながら学ぶ漢字教室を開講しています。国境を越えて誰もがいろいろな文化に触れて、お互いを理解しあえるような講座を開催しますので、皆さんの参加をお待ちしております。

実施予定講座案内

- 7月 漢字教室
- 8月 ワンデイバスツアー
- 9月 多文化共生カレッジ
- 11月 ワンデイバスツアー
- 12月 多文化共生ワークショップ
- 1月 ワンデイツアー／漢字教室

2012年6月号

No.119

Summer

- ◆ようこそとちぎへ
- ◆国際交流団体紹介
- ◆JICA 情報局

平成24年度栃木県国際交流員 金艶さん(中国)
ユニ音楽国際交流協会
平成23年3次隊・4次隊 JICA ボランティア派遣

国際理解教育実践セミナー「国際理解教育について考えるための10のポイント」

国際理解教育を進める担い手を育成する平成23年度国際理解教育実践セミナーを2月26日(日)、とちぎ国際交流センターで、早稲田大学文学学術院教授の山西優二氏を講師に迎え開催し、29名が参加した。

アイスブレイキング「部屋の四隅」で、国際理解教育の経験やセミナーで学びたいことなどについて参加者から話しを聞き、次に、ワークショップ「レヌカの学び」を実施し、多文化共生や異文化理解の大切さ



▲国際理解教育のためのヒントを教えてくださいました山西氏(右)

について話し合った。そして、「国際理解教育について考えるための10のポイント」について山西氏は、国際理解教育は平和実現のための教育であること、そして平和はまず人間理解や人間同士の関係づくりから始まることなどを説明した。

「外国人のための漢字教室」

多文化共生普及啓発モデル事業の一環である、「外国人のための漢字教室」(全10回)を5月8日(火)に、とちぎ国際交流センターで開催した。

受講者はブラジル・中国・ベトナム・パキスタン人の7名、そして講師はTIAスタッフ。「生活の漢字」をテーマに、日常生活用品や公共施設等で多く使われる漢字を学んでいく。

今回はパソコンを使つての講座のため、受講者はローマ字入力をし、漢字に変換するという一連の操作で、漢字を習得している。また、受



▲講座に取り組む受講者

講者の日頃の生活で感じている、母国と日本の違いなども話題にし、とてもアットホームな雰囲気です。進んでいる。

県内市町国際交流協会 防災訓練「多言語翻訳シミュレーション」

地震等の災害時における外国人支援のために、県内市町国際交流協会との連携による防災訓練「多言語翻訳シミュレーション」を3月13日(火)～15日(木)、初めて実施した。

M7.8の直下型地震が発生し、真岡市が被災したと想定。同市に設立された災害多言語支援センターからの翻訳要請により、TIA及び市町国際交流協会が連携し翻訳協力者を募り、ポルトガル語、スペイン語、中国語、タガログ語、タイ語、英語、ベトナム語、やさしい日本語の8言語に災害関連情報を翻訳した。各協会から合計49名の翻訳協力者が参加した。

「相談員・通訳協力者実務研修会」

平成23年度第2回相談員・通訳協力者研修会を3月7日(水)、とちぎ国際交流センターで開催し、TIAの通訳協力者や相談員等28人が参加した。

第1部は、宇都宮家庭裁判所書記官 秋枝和子氏を講師に迎え、「家事事件の手続き方法」という題で、講演をいただいた。離婚調停の申立て方法や、外国人が手続きする場合に留意する点などを学んだ。

また、第2部は、栃木県弁護士会弁護士 山下雄大氏を講師に迎え、

講演「外国人法律相談の現状と問題点」で、外国人の離婚や多重債務から刑事事件まで、外国人事件について幅広く学んだ。難しい専門用語や言い回しを分かりやすく説明していただき、大変有意義な研修会となった。



▲熱弁する講師の山下弁護士

「日本語ボランティア情報交換会」

外国人にボランティアで日本語を教えている方を対象として、意見交換や教え方のブラッシュアップを行う情報交換会を平成24年2月24日(金)にとちぎ国際交流センターで開催し、28名が参加した。講師は宇都宮大学非常勤講師の金子正子氏。今回のテーマは「会話力アップを目指す授業のポイント」。外国人学習者が「話せる」ようになる教室活動をグループに分かれて話し合ったところ、身近な話題を取り上げたり、小道具等を使ってわかりやすく話題提供をする等の実践例があった。後半は「タスク先行型ロールプレイ」を活用した日本語指導の方法。学習者のレベルに応じて役割を与えて、自由に会話してもらうというもの。会話の中で学習者の苦手なところを把握したり、その場に応じた表現の提案ができることを学んだ。



▲金子先生のわかりやすく楽しい授業が展開された

「外国人のための医療福祉相談会」

外国人に日本の医療・福祉制度を正しく理解していただき、適切なケアが受けられるようにするため、済生会宇都宮病院、済生会高齢者ケアセンターとTIAの共催で平成24年3月24日(土)に、とちぎ国際交流センターで医療福祉相談会を実施した。医療費の心配や言葉に自信がないため病院に行きづらい、体調に不安はあるが相談相手がいない、あるいは家族の介護で困っている外国人等に、看護師、医療ソーシャルワーカー、介護相談員が中国語、ポルトガル語、スペイン語等の通訳を介し相談に応じた。



きん えん
金 艶さん (中国・杭州市出身)

中国杭州市にある浙江旅游職業学院で日本語教師に従事。今年の4月から県国際課で国際交流員として、通訳翻訳等を行っている。趣味は写真撮影。

—金さん、日本語がお上手ですね。日本語を学ぶきっかけは何か。

いいえ、まだまだだめです。私が日本語を学ぼうと思ったきっかけは、高校生のときに見た日本のドラマの影響ですね。特に「東京ラブストーリー」を見て、日本に興味をわき、日本語を勉強したいと思い、大学入試の時は、日本語学科のある大学を選びました。実際、大学で日本語を学んでみると、日本語は簡単なのかなと思ってきました。大学はいい先生ばかりでしたので、日本語がますます好きになりました。

—そうなんですね。今回、日本は初来日ですか。

日本は、今回で2度目です。来日前は杭州市の旅行専門学校で日本語を教えていました。前回日本に来たときは、教え子が日本のホテルに研修に来ていたので、その様子を見に、東京、大阪、京都、鬼怒川、静岡などを訪問しました。今回は、日本で栃木県庁で働くのは初めてという不安がありました。職場の皆さんが

優しく親切な人ばかりなので、楽しく仕事しています。

—日本は2度目だそうです。栃木県の印象はいかがですか。

まだ、宇都宮市しか知りませんが、気候も穏やかで、静かな、落ち着いた暮らしやすい町だと思います。中国のように人口が多なくて、町がコンパクトにまとまっていて、便利だと思います。それから、日本に来て、震度3の地震を体験しましたが、中国では地震を一度北京で経験しただけなので、とても驚きました。

—地震は驚かれたでしょう。最後に、抱負を聞かせてください。

子供が生まれてから、子供の成長をカメラで収めていくうちに記録から趣味へと変わってしまいました。「微博」と呼ばれる中国版ツイッターで、来日してからの研修会とかほぼ毎日の日記をつけるように写真をアップし続けています。日本滞在中の様子や旅行などに行ったときも、写真をアップしながら中国の人たちに日本の生の情報をネットを通じて、紹介していきたいと考えています。また、9月に来日前に教えていた生徒が山梨の温泉ホテルに研修に来るので、会いに行きたいです。それから北海道方面にも旅行したいと考えています。



▲中国にいるご主人とお子さん

国際交流団体紹介

「ユニ音楽国際交流協会」

ユニ音楽国際交流協会は、音楽を通して海外との友好、親善、文化交流をはかり、世界の平和に寄与することを目的として、100名を超える会員の下に、平成20年に設立されました。

ユニという名前は、UNISON（同調、一致、皆で一緒に同じ音を演奏する、等の意味）という単語より頂きました。

音楽に国境は無いと言うのは本当の話で、政治的にいがみ合っていたり、戦争をしている国同士の人達でも、共に演奏したり、聴衆となることで、涙を流して感動し合えることも出来ます。

私たちは、演奏団体としては大変珍しく、箏、三味線、尺八、和太鼓等の和楽器から、ヴァイオリン、フルート、ピアノ、オカリナ等の洋楽器更には、声楽、コーラス等、音楽の洋の東西を問わず一緒に活動しています。

毎年1回チャリティーコンサートを開催している他に、海外においても、今までに、韓国のソウル市郊外のハンセイ大学、中国の昆明市の雲南芸術大学、青島市の青島市人民会堂（宇都宮市の



▲中国青島市での友好音楽会

文化課の方にも御参加頂き、現地日本人会はバスを連ねて御来場頂き、総領事からの御招待にもあざかりました。イタリアの



▲椿姫の邦楽オーケストラ

三味線などの和楽器をメインとした邦楽オーケストラを結成し、イタリアより指揮者を、韓国よりソプラノ歌手を招聘し、また、民謡歌手も加わっての演奏や、コンサートに至るまでの練習などを通して、多国間での文化的、人的交流を図ってきました。

今年も、8月25日土曜日午後5時より宇都宮市文化会館にて和洋の音楽総動員にてチャリティーコンサートを開催します。是非、足をお運び頂ければと思います。

また、御興味のある方は是非御連絡頂ければ幸いです。

(文：事務局長 石田忠隆)

のプレーシア市のヴィーコロ・オルターリア劇場にて、現地の方々と親善交流コンサートを行いました。

また、世界で最も愛されているオペラの一つ、「椿姫」をオーケストラに箏や



▲チャリティーコンサート

公益財団法人栃木県国際交流協会 平成24年度の主な事業

<情報収集提供事業>

- ・ ホームページ運営事業
- ・ 機関紙発行事業
- ・ 携帯メール多言語情報提供事業



<相談事業>

- ・ 相談事業
- ・ 通訳・翻訳協力事業

<人材育成事業>

- ・ 災害時外国人サポーター養成セミナー
- ・ 医療通訳ボランティアセミナー
- ・ 日本語学習支援事業
- ・ 相談員・通訳協力者実務研修会
- ・ 内地留学語学指導事業
- ・ 県民外国語講座
- ・ 英語能力試験協力事業



<外国人支援事業>

- ・ 留学生支援事業
- ・ 外国人消費生活リーフレット作成事業



<多文化共生推進事業>

- ・ 多文化共生推進事業
- ・ やさしい日本語普及による多文化共生の推進事業
- ・ 多文化共生普及啓発モデル事業



<国際交流推進事業>

- ・ 国際交流団体連携推進事業
- ・ 海外交流支援事業

<国際協力推進事業>

- ・ 海外技術研修員受入事業
- ・ 国際協力機構(JICA)協力事業
- ・ 草の根技術協力事業



<国際理解推進事業>

- ・ 国際理解推進事業
- ・ とちぎグローバルセミナー
- ・ 国際理解教育実践セミナー



JICA 情報局

平成23年3次隊・4次隊 JICA
ボランティア【栃木から世界へ】

平成23年3次隊・4次隊のJICAボランティア4名がアフリカ・中南米に向けて出発しました。夢を現実にした栃木県出身のJICAボランティアにインタビューしました。

出口聡美さん(宇都宮市出身)

エクアドル・ピンチャ県キト市の病院で、看護師として活動してきます。現地でたくさんの友達を作って楽しく活動したいと思います。その中で何か現地の人に役立つことが出来たら良いなと思います。



大塚正紀さん(栃木市出身)

ウガンダの私立職業訓練校で、料理講師として活動してきます。現地の人々に対し心のこもったサポートができればいいなと思っています。



永島知美さん(佐野市出身)

エクアドルのNGO 障害児支援団体のリハビリテーション部門で、理学療法士として活動してきます。地元の人々に寄り添って、地域に根づく活動をしたいと思っています。



長沢絵美さん(足利市出身)

モザンビークの中学校にて、理科科教師として現地の子ども達に数学の授業を中心に行ってきます。活動の足跡が残るように2年間頑張ってきます。



★2年間のボランティア活動、頑張ってください。行ってらっしゃい。

【問合せ】TIA内 JICA 栃木デスク 028-621-0777

賛助会員募集!!

TIA では、賛助会員を募集しています。

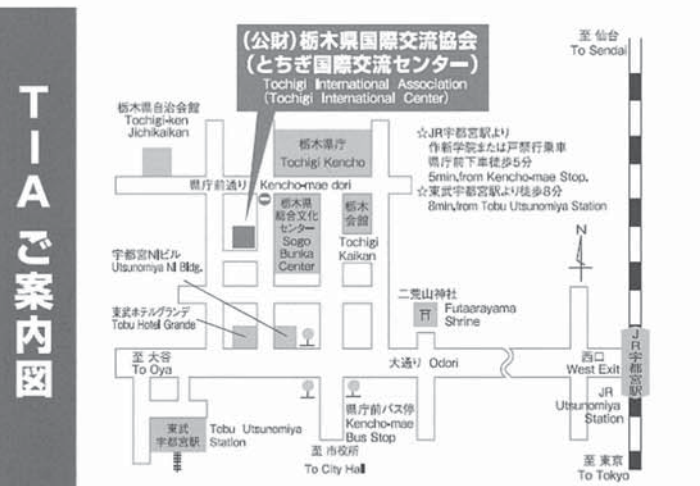
皆さまからの賛助会費は、TIA のさまざまな事業に使用させていただき、地域の国際化に役立てています。

法人賛助会員にご加入いただいた企業の方々には特典として、TIA ホームページのバナー広告の掲載料を無料とさせていただきます。ぜひ TIA の賛助会員の入会のご検討をお願いします。

<会費について>

会費(年額) 法人 30,000円 団体 10,000円 個人 3,000円

※TIA は公益財団法人の認定を受けており、税制上の優遇措置が受けられます。



編集・発行 公益財団法人栃木県国際交流協会
住所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内
TEL 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)
FAX 028-621-0951
業務時間 8:30~17:15
休館日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日